

「スラブ・ユーラシア地域を中心とした総合的研究」 共同利用型報告書

横田慎介

研究テーマ：太平洋戦争中の日ソ関係：重光外相とマリク駐日大使の視点から

・研究の目的とこれまでの研究成果

本研究の目的は、太平洋戦争中、日ソ外交で重要な役割を果たした日本およびソ連の外交官に焦点を当て、彼らの外交構想を分析し、その構想が実際の外交政策にどのような影響を与えたかを見ていくことである。日本側では重光葵外相、ソ連側ではヤコブ・マリク (Yakov Alexandrovich Malik) 駐日大使を主に取り上げる。

これまで行った研究では、重光外相の外交構想に関連づけて日本の対ソ政策を分析し、日本の全般的な外交政策におけるソ連の位置づけとその変化を考察してきた。

・共同利用の目的と成果

今回の共同利用の目的は、第二次世界大戦中のソ連の外交政策およびマリク大使の外交構想に関する一次資料や先行研究を収集することであった。

一次資料として探したのは大戦中のソ連中央部と駐日ソ連外交部とのやりとりやマリク大使の日記であったが、それらを見つけることは出来なかった。日ソ関係やスターリン関係の資料の目録は手に入れることが出来たので、それを参考に引き続き資料を探したい。

先行研究は、主に欧米やロシアの学者による研究を収集した。本研究の対象であるマリク大使に関する先行研究は見つけることが出来なかったが、戦時中のソ連の外交政策や日ソ関係に関する研究は豊富にそろっていた。まだ収集した研究のすべてを読み終えていないが、戦時中のソ連の外交政策において日本の占める割合はとても小さいようである。ただ、マリク大使がソ連中央部の決定に影響を与えうる立場にいたこと分かったことは収穫であった。例えば、戦後秩序に関する委員会の長であったリトヴィノフは、ダンバートン・オークス会議で、世界を米英ソの勢力圏に分割することを提案する予定であった。しかし、世界を勢力圏に分割した場合、ソ連は極東における影響力を失うことになる、というマリク大使の指摘によってこの提案は取りやめられた。

・利用した感想

ソ連関係で探した資料のほとんどは本館の書庫および北方資料室とスラブ研究センター図書室に所蔵されていた。スラブ研究センター図書室には最近海外で発行された資料もたくさん所蔵されており感激した。一次資料の目録の一部はスラブ研究センター図書室にマイクロフィルムとして所蔵されていた。それらは図書室内にあるマイクロリーダー機でPDF文書に変換でき便利だった。